

婦人科重荷療法ノ統計的觀察

Über die Statistische Betrachtung der gynaekologischen Belastungstherapie.

金澤醫學士 本 仙 太 郎 (小樽)

(昭和5年10月27日受附)

(本稿ノ大要ハ北海道帝國大學ニ於ケル日本婦人科學會札幌地方部會發會式ニ於テ發表セシモノナリ)

目 次

第一節 緒 論	第四項 月 經
第二節 本邦ニ於ケル重荷療法ノ歴史	第五項 患者ノ主訴
第三節 西歐ニ於ケル重荷療法ノ文獻	第六項 診 斷
第一項 コルポイリユテル使用法	第七項 反覆回数
第二項 患者ノ體位	第八項 治療日數
第三項 一處置ノ時間	第九項 治療ノ結果
第四項 重荷療法ノ効用適應及ビ禁忌	第十項 實驗總括
第四節 弊院ノ操作	圖表甲 (實驗患者132人)ノ總括表
第一項 患者ノ體位	圖表乙 第1年 齡
第二項 一處置ノ時間及ビ間隔	第2 分妊ノ回数
第三項 腹壁重荷	第3 月 經
第四項 適應禁忌	第4 患者ノ主訴
第五節 統計表ノ説明	第5 本療法ノ結果
第一項 年 齡	第六節 結 論
第二項 職 業	文 獻
第三項 分娩回数	

第一節 緒 論

疾病治療法ハ古來日常經驗ニ基ヅク卑近ナル操作方法ニ其端緒ヲ發シ醫人ガ各年代ノ新知識ヲ以テ取捨選擇ヲ行ヒ簡單ヨリ複雑ニ進歩發達シテ廣汎ナル醫治法ヲ構成シタルモノト認メラル、婦人科治療法モ此慣例ニ漏レズ簡單ナル局處及ビ全身療法ニ始マリ現時ノ光輝アル手術的療法、注射療法及ビ理學的光線照射療法ノ域ニ到達シ其間幾多ノ取捨選擇ヲ經由シタルナラムモ其効果適確ナル特殊療法ハ各學者ノ周到ナル智囊ノ洗練改良ヲ經テ完成ノ域ニ到達シ益々其効果ヲ提示シツ、アルモノナリ。

重荷療法 重荷療法モ其創始ニ當リ單純腹壁操作ニ初マリ、後年ニ至リテ腹腔内ニ對壓反撥物ヲ挿入シテ炎症癒着物ノ斷裂腹内滲出物ノ吸收ヲ促進快癒セシムル様考案改良セラレタリ。

第二節 本邦ニ於ケル重荷療法

本邦ニ於テ該療法ノ開始サレシハ恐ラク今ヨリ30年前ニシテ東京大學木下教授ハ之レヲ重荷療法、京都大學高山教授ハ之レヲ壓迫療法、楠田謙三氏ハ荷重療法、緒方正清氏ハ擔錘療法ト命名セラレタリ。

第三節 西歐ニ於ケル重荷療法ノ文獻

成書ニ因レバ重荷療法ハ恰モ「マツサーセ」ノ如ク罹患變位臟器及ビ臟器系統ニ壓作用ヲ波及セシムルコトニアル、彼之相異ナル點ハ此療法ノ壓作用ハ「マツサーセ」ノ如ク間斷的ナラズシテ長時平等ニ其作用ヲ繼續ス、今ヲ去ル49年前即チ1881年クローバツク氏ガ初メテ之レヲ創設シ。ウ・ア・フロインドアウワード、フンケ、ピンタス等ニヨリ其方法操作ガ取捨改良セラレ、シヤウタ及ビハルバンニ至リテ現時ノ型式ヲ取ルニ至レリ。

1乃至2疋量ノ散彈囊ヲ腹壁ニ置キ子宮及ビ其附屬器乃至其周圍ニ強キ壓作用ヲ活カシメント創意セラレタルモ臟器ガ其爲メ深ク骨盤内ニ退去シテ効ヲ奏セザリシノ故ヲ以テ、此下方變位ヲ防ギ同時ニ反壓作用ヲ喚起セシムル爲メ腔内ニ對壓物挿入ヲ考案セリ、爲メニガリール氏空氣ペツサール、フロインド氏散彈腔鏡ヲ應用シ、後チ水銀ヲ充盈シタル「ゴム囊」即チ「コルポイリントル」挿入ガ立案セラレタリ、此方法ニヨリ其水銀用量ヲ加減シ得ルコト狹隘腔ニモ過強ナル伸展痛ヲ起サズシテ大ナル壓作用ヲ作用セシメ、且ツ水銀囊ハ自ラ腔ノ形狀ニ適合シ壓ノ分布平等ニシテ容易ニ其目的ヲ達スルヲ得タリ、之レピンクス氏ノ吾人ニ教示シタル所ナリ。

第一項 「コルポイリントル」使用法

コルポイリントル使用法ハ腔清拭後、後陰穹蓋部ニ折り疊ミタル「コルポイリントル」ヲ入レ「ゴム管及ビ漏斗」ニヨリテ水銀ヲ流入セシムルナリ、水銀容器ノ上下ニヨリ療法中水銀ノ量及ビ壓ヲ増減セシムルヲ得。

多數ノ經驗ニ基ヅキ初メヨリ高キ内壓ヲ作用セシメズ送入スル水銀ノ量ヲ一療法毎ニ増加シ行クコトヲ適當ナリトス。

初メ約500瓦(35—40立方仙米容量)水銀ヲ用キ、漸次約1000—1500瓦(70—100立方仙米容量)ニ至ル迄增量ス。

「ゴム散彈囊」ニヨル腹壁外壓即チ重荷ハ同ジク初メ1疋ヨリ後2疋ニ至ル迄之レヲ高ムルコトヲ得。

第二項 患者ノ體位

患者ノ體位ハ骨盤部ガ舉上セラル、様、臥床ノ足端ガ高メラレ此位置ニヨリテ主ナル壓力ガ薦骨岬ニ向フ様、工夫スルコトヲ必要ナル條件トス亦適當ナル側臥ヲナサシムル場合壓迫方向ヲ更ラニ變更シ適宜ナル局處ニ限定スルコトヲ得。

ピンクス氏ニヨレバ此單筒ナル裝置ニテハ對壓囊ノ急速ナル除去ハ下腹臟器ニ突發的ノ重

血乃至炎性物質ノ散布遊走ヲ起サシムルノ危険アリト、爲メニ水銀ガ空氣ト置換セラル、如キ複雑ナル装置ガ考案セラレタルモ通常吾人ハ其必要ヲ認メズ周知ナル水銀ノ除去ニヨリ此危険ヲ避クルコトヲ得可シ。

第三項 一處置ノ時間

一處置ノ時間ハ平均1乃至4時間ナルモ過大ナル障碍ノ除去ニ際シテハ急速ナル好果ヲ得ルコトナクモ猶ホ長ク延長シテ何等ノ支障ナシ、治療反覆ノ回数ハ此療法ノ効果ノ如何又ハ局處所見及ビ一般状態ニヨリテ定メラル。

第四項 重荷療法ノ効用適應及ビ禁忌

重荷療法ノ効用ハ大要左ノ二様ニ區別セラル。

(I) 先ツ「マツサーセ」ニ於ケルガ如ク壓排作用ト附隨シテ起ル重血ニヨリ炎性産物ノ吸收促進及ビ局處抵抗力ノ増進ヲ促スコトヲ得。

(II) 骨盤臟器就中子宮及ビ附屬器ノ正常位ヲ成就スルコトヲ得、之レ實地上大切ナル所ナリ、此療法ノ適應及ビ禁忌ハ「マツサーセ」ト同様周到ナル注意ノ下ニ病症ノ撰擇ヲ誤ラザルコトヲ緊要ナリトス。

婦人科的「マツサーセ」及ビ本療法ノ操作ハ普通乃至ソレ以下ニ緩慢ナル治癒乃至吸收機轉ヲ充進セシムルニアルヲ以テ急性症ヲ全然回避スルコトナク周到ナル注意ノ下ニ此療法ヲ試ミ其疾病經過ヲ觀察スルヲ要ス、即チ體温上昇疼痛ノ發來痛ミナクモ所見ノ増悪スル時療法ヲ中止シ、同様月經ノ直前直後各局處治療ヲ禁忌トスル場合モ之レヲ行ハザルヲ宜シトス。經過上、月經時ニハ強キ血液灌漑ノ爲メ刺戟反應ヲ起シ且ツ治療刺戟ト相加ハリテ増悪ヲ起シ易キ故ナリ、是レハ子宮附屬器炎症ハ勿論子宮周圍炎、外膜炎及ビ炎症性癒着ニ對シテモ同様ナリ。

是レニ反シ慢性下腹炎症ニ優良迅速ナル効果ヲ期待スルコトヲ得、就中組織細胞浸潤ノ如キ固キ硬結性腫起ノ存在スル時ニ於テ然リトス、種々ノ場合ニヨリ重荷療法ガ喫緊ナル治療手段ト認メラレザル場合ニ於テモ僅カニ本法ヲ施行シタル後多少著シキ炎症ノ再燃アルコトヲ顧慮セザル可ラズ、併シ之レハ下腹炎症ニ對スル總テノ理學的療法ニ通有ナル缺點ナリトス。此危険ヲ除外スレバ重荷療法ニヨリテ獲得セラル、効果ハ其自覺のタルト他覺のタルト問ハズ亦偉大ナルモノアリト言フ可キナリ、之レ慢性炎症治療ニ此療法ガ専用セラル、所以ナリ。主要壓迫作用部及ビ治療領域ノ差異ニヨリ「マツサーセ」及ビ壓迫療法ノ應用範圍ガ區別セラル、即チ骨盤底疾患ニ重荷療法。ヨリ以上子宮底ニ局在スル疾患ニ對シテハ用指の「ツ、レブラントマツサーセ」施行ヲ優越ナルモノト認メラル。前述ノ如ク本療法ニ用ハ唯盤底慢性炎症ノミニ限ラズ患者臥床ノ足端ヲ壓迫方向ガ薦骨岬ニ作用スル如ク装置スル時「コルポイリントル」ノ重サニ依リテ後腔穹窿ノ伸展乃至頸管部ヲ後方ニ壓排シ後屈子宮體ヲ前方ニ壓上整復セシムルコトヲ得。故ニ過敏患者ニ對シ麻酔藥ヲ用ヘテ其恐怖ヲ去ルノ煩ヒナク容易ニ子宮位置矯正ヲ全ウスルコトヲ得。殊ニ子宮底ニ發シタル癒着ニ際シテモ或ル場

合2乃至3回ノ本療法反覆ニテ奏効スルコトヲ常トス。猶ホ前屈位ヲ得ラレザル時癒着剝離法トシテ婦人科のマッサージセテ併用スルコト勿論ナリ。

其他本療法ハ鉗頓妊娠子宮ノ愛護的整復ニ利用セラル。此際水銀ヲ滿タシタル「コルボイリントル」ノ充鎮ヲ要セズ。屢々骨盤高位ヲ取ラシメ、「コルボイリントル」ニ水液ノ一定量ヲ流入セシムルノミニテ充分ナリトス。

前記ヲ摘要シテ本療法ノ効用適應禁忌ハ左ノ如シ。

- 効用 (1). 病竈部重血ニヨル滲出物吸收促進。
- (2). 局處抵抗力増進、網様内被系統ノ一部ヲ刺戟シテ贅喰細胞ノ遊走ヲ盛ナラシメ傍ヲ對細菌防禦酵素產生ヲ旺盛ナラシムル様反應ヲ惹起セシムルニ基ヅク可シ。
- (3). 臟器ニ一定ノ正常位ヲ成就セシムルヲ得。
- (4). 鉗頓妊娠子宮ノ整復。
- (5). 癒着子宮異常位置ノ用指矯正前處置。

- 適應 (1). 子宮附屬器炎、周圍炎、外膜炎ノ炎症癒着吸收機轉ヲ高ムルト共ニ炎症再燃ヲ誘起スル恐レアル故急性、亞急性炎ニハ深甚ノ注意ヲ拂ヒ「マッサージ」ト共ニ之レヲ用ユ。
- (2). 慢性下腹炎症ニヨル滲出、細胞浸潤乃至組織化シタル固キ硬結腫脹性癒着纖維及ビ膜狀物ハ壓作用ニヨリ斷裂又ハ伸展セラル、此際亦多少ノ炎症再燃アルコトヲ顧慮ス可シ、之レハ下腹理學的療法ニ通有ナル弊害ナリ。

- 禁忌 (1). 體温上昇、疼痛ノ發來、痛ミナクモ所見ノ増悪。
- (2). 月經時及ビ其前後。此時治療刺戟ト相俟テテ所見増悪スルヲ常トス。

第四節 弊院ノ操作

弊院ニテ重荷療法開始ノ頃ハ「コルボイリントル」ヲ用ホタルモ其後チ製精シタル牛膀胱ヲ手拵大ニ切り詰メタルモノヲ完テ以テ「ゴム管ニ連結シ之レヲ「コルボイリントル」ニ代用ス、之レ所謂本療法ニ應用スル水銀囊ナリ。

水銀。容量約80仙米立方(重量約1000.0瓦ヲ共口ノ瓶ニ入レ。同様ノ瓶2個ヲ用意ス。此1個ノ瓶入水銀ヲ「ゴム管ニ連結シタル硝子製漏斗ニヨリ腔腔ニ挿置シタル前記牛ノ膀胱内ニ流入セシム。

第一項 患者ノ體位

操作時ノ體位。約30度ノ骨盤高位ヲ取ラシメタル患者ノ股ヲ開カシメ「クスコ腔鏡ヲ送り1%ノ「クリヅル液」ニテ消毒シタル牛ノ膀胱ヲ縦ニ折り疊ミテ「コルボイリントル」用鉗子ニテ挾ミ之レヲ腔内ニ送入シ水銀ノ少量ガ腔内ニ流入スル間ハ輕ク「クスコ腔鏡」ノ尖端ヲ哆開セシメ水銀ノ稍々流入シタル時(約半量)「クスコ腔鏡」ヲ去リ疼痛ヲ訴ヘザル程度ノ水銀ヲ追加シ「ゴム管ニ連結スル漏斗」ヲ去リ水銀囊ニ連ナレル「ゴム管端」ヲ「クキシユハン」ニ挾ミ一側ノ

大腿部ニ掛ケ置ク。

第二項 一處置ノ瞬間及ビ間隔

時間. 普通外來治療時間ハ30分乃至1時間。

間隔. 毎日、隔日、2日置キ、通常隔日ニ之レヲ行フヲ理想的ノ原則ト爲ス。

第三項 腹部重荷

腹壁重荷散彈囊重量1000.0瓦之レニ500瓦ノ砂囊ヲ重疊スルコトアリ。

第四項 弊院ノ適應禁忌

弊院ニテ重荷療法ヲ適用スル範圍ハ大要左ノ如シ。

- (1). 子宮周圍ノ癒着剝離。
- (2). 子宮後屈後轉症位置矯正。
 - A. 「ベツサール」療法ノ前處置。
 - B. 「アリキサング」手術ノ準備處置。
- (3). 子宮腫瘍及ビ附屬器腫瘍(炎症及ビ出血ヲ伴ハザルモノ、手術前處置。
手術ニ際シ子宮、附屬器及ビ附着靱帶ノ伸展性ヲ大ニシテ手術時ノ癒着剝離乃至子宮舉上度ヲ高メ骨盤内操作ヲ容易ナラシム。
- (4). 妊娠初期子宮ノ後轉後屈。癒着強クシテ用予ニ位置矯正困難ナルモノ、但シ此際本療法適用ニハ深甚ノ注意ヲ拂ヒ且ツ水銀ニ換ユルニ水液ヲ用フルヲ安全トス。

- 禁忌
- (1). 老齡及ビ極若キ婦人ノ子宮異常位置及ビ腔腔ノ狹隘ナル婦人。
 - (2). 分娩流産後貧血高度ニシテ腔腔ノ伸展力僅少ナリト思ハル、者。
 - (3). 急性炎症及ビ化膿竈(特ニ淋菌性喇叭管炎及ビ膿腫)ヲ有スルモノ。
 - (4). 本治療ニ際シ疼痛激甚ナルモノ。

第五節 統計表説明

著者ハ自己ノ經驗シタル患者總數132名ニ付其氏名、年齡、職業、分娩ノ回數、月經、主訴診斷、重荷回數、治療日數、治療後ノ結果ヲ列記シテ左ノ表ヲ得タリ。

第一項 年 齡

19歳2人(1.51%)、20歳—29歳(56.81%)、30歳—39歳45人(34.09%)、40—49歳9人(6.01%)、50歳—59歳1人(0.75%)。

即チ本療法適應患者ハ20—29歳ノ間ニ最モ多ク30—39歳ノ者之レニ次グ。

第二項 職 業

職業千差萬別ニシテ特記ス可キ價値ナキモノ、如シ。

第三項 分 娩 回 數

分娩回數ト本療法患者ノ關係ハ不妊症ヲ合併シタル42人(31.81%)ヲ除キ

1 回分娩 26 人 (19.66%)	2 回分娩 15 人 (11.36%)	3 回分娩 16 人 (12.12%)
4 回經産 8 人 (6.06%)	5 回經産 7 人 (5.30%)	6 回經産 6 人 (4.54%)
7 回經産 7 人 (5.30%)	8 回經産 4 人 (3.03%)	

即チ經産ノ關係ニ於テハ 1 回分娩後ノ者最モ多ク 2 回、3 回之レニ次ギ 5 回ト 7 回トハ同數ナリ。

第四項 月 經

月經ノ關係ハ正順 86 人 (64.69%)、不順 46 人 (34.38%)、之レヲ年齡別ニ分割スル時、順、不順共ニ 20 歳乃至 29 歳ニ於テ其多數ヲ占メ爾後漸次其數ヲ減ズ、但シ本療法適應患者ニ月經ノ正順ナルモノ多ク恰モ不順ノ數ニ倍スルガ如キハ奇ナル現象ト思考セラル。

第五項 主 訴

患者ノ主訴ハ下脚牽引痛、臀痛、貧血、發熱、鼻痛、複視、胃部膨滿感、不妊、下脚倦怠、腰冷感、月經不順、月經困難、耳鳴、下痢、惡寒、肩痛、尿痛、嘔吐、四肢痛、鼓腸、腹部膨滿、緊張感、惡心、不正子宮出血、帶下、眩暈、腰痛、下腹痛、頭痛等ナリ。殊ニ總患者ノ約 3 分ノ 1 ニ頭痛、下腹痛ヲ見、其約 5 分ノ 1 ニ腰痛、眩暈ヲ聞キ帶下ヲ訴フルモノノ數之レニ次グハ興味アル現象ナル可シ。

第六項 診 斷

診斷表中ノ略語 R ハ子宮後轉後屈症、實炎ハ子宮實質炎、實内炎ハ實質内膜炎ヲ著ハシタルモノニシテ其數最モ多ク、其他子宮外膜炎、骨盤腹膜炎、喇叭管炎、複故機不全、膣部糜爛、膣炎、陰門炎、妊娠ノ合併、子宮後方又ハ側方癒着、アレキサンダー手術後、尿道膀胱炎、血尿等アリ。但シ外來直後入院、位置矯正手術ヲ續行シタルモノニ本療法ヲ適應シタル者アルモ手術例ナルヲ以テ單純重荷療法例ヨリ之レヲ除外セリ。猶ホ本療法前、子宮出血又ハ急性生殖器ノ炎症アルモノハ其慢性ニ移行シ静止状態トナルヲ俟チ本療法ヲ行フヲ主眼トセリ。

第七項 重荷療法反覆回數

重荷療法反覆回數ハ總計 529 回ニシテ平均 1 人ニ付 4 回トナル。

第八項 治 療 日 數

全患者ノ治療日數ハ其延數 2540 日ニシテ平均 1 人ニ付 19.24 日即チ約 20 日間ナリ。

第九項 結 果

治療ノ結果、有効 87 人 (66.66%)、不明 37 人 (28.00%)、無効 8 人 (6.00%)。

但シ不明ハ治療ヲ持續シ得ザリシモノ、無効ハ本療法後症狀ノ増悪シタル觀アリシモノナリ。

有効患者ノ内、22 人 (16.66%) ニ「ベツサリウム」ヲ挿入シ猶ホ 6 人 (4.54%) ニ妊娠ヲ證明シタリ。

第十項 實驗 總括

圖表甲 (總數 132 人)

氏名	年齢	職業	分娩	月經	主 訴	診 斷	重荷	日數	結 果
佐 ○	20	料理	1	順	帶下	R. 實炎	5	29	+
○ 藤	24	商	1	不	頭痛, 眩暈	R. 實内炎	6	16	+
澤 ○	24	店員	1	不	帶下, 頭痛, 下垂感	R. 内炎	5	27	+
酒 ○	32	會社員	3	順	帶下	R.	6	48	+ ベツサ
○ 好	36	船員	2	順	頭痛, 下腹痛	R. 實内炎	6	13	+
向 ○	30	勞働	3	順	下腹, 腰痛, 帶下	R. 内炎	6	14	+
三 ○	22	會社員	1	順	不正出血	R. 出血内炎	4	29	+
○ 岡	25	勞働	0	順	下腹腰痛	R. 内炎	10	49	+
岸	32	會社員	4	順	悪心	R. S 初期	2	7	+
○ 分	23	商	0	順	帶下, 不妊	R. 内炎	4	14	+
大 ○	32	醫師	2	順	下腹痛, 倦怠感	R. 實内炎	6	31	+
○ 室	32	會社員	3	不	頭痛, 複視, 帶下	R. 實内炎	5	15	+
力 ○	26	僧侶	2	順	不全流産, 出血	R. 内炎	2	28	+ ベツサ 其ノ後 娠ス
千 ○	25	商	3	不	外陰部癢痒感, 盜汗, 心悸亢進	R.	5	20	+ ベツサ
○ 橋	39	無	5	順	帶下, 不腹緊張	R. 實炎	5	9	+
田 ○	23	店員	1	順	帶下, 下腹痛	R. 内炎	3	5	±
○ 澤	21	勞働	0	順	不正出血, 頭痛, 尿痛	R. 喇炎, 尿炎	4	12	±
齊 ○	40	商	8	順	頭痛, 眩暈	R. S ?	2	6	+
○ 木	41	勞働	8	不	頭, 鼻痛, 耳鳴	R. 内炎	3	6	+
成 ○	36	商	0	順	帶下, 月經困難	R. 内炎	4	20	+
○ 村	21	商	0	順	月經痛	R. 内炎	3	18	+
木 ○	33	商	3	順	腰痛	R. 外膜炎	4	46	+
○ 藤	19	無	0	順	腰痛, 頭痛	R. 内炎	5	27	+
石 ○	26	商	0	順	帶下, 腹痛	R. 内炎	9	93	+
○ 田	20	印刷	1	不	月經不順	R.	7	24	+
奥 ○	23	勞働	1	不 授乳	復故不全, 出血, 帶下	R.	6	29	+
○ 寺	39	義太夫	1	順	腰, 下腹痛, 下腹緊滿感	R.	4		±
小 ○ 島	33	會社員	6	不 後産	鼓腸	R.	3	36	+
○ 館	32	水産	3	順	腰, 下腹痛	R. 實炎	17	114	+
今 ○	29	無	2	順	無月經	R. S ?	1	5	+ 妊娠
○ 村	29	無	0	順	心悸亢進, チアノーゼ 發作	R. 内炎	5	12	±
長 ○	24	商	1	順	腰下腹痛	R. 外炎	6	17	+
○ 井	21	店員	0	順	無月經	R. 内炎	1	2	±

夏川	○	23	會社員	0	順 下腹痛	帶下, 頭痛	R. 實内炎	1	2	士	昭和5年4月 アレキ 術ヲ受ク
原	○	24	労働	3	順	肩痛, 扁頭痛	R. 實内炎	1	1	士	
吉	○	24	官吏	0	順	子宮小出血	R. 内炎	1	2	士	
川	○	29	官吏	2	順	帶下, 肩四肢痛	R. 内炎	1	2	一	
吉	○	23	會社員	1	順	子宮出血	R. 出血内炎	6	24	+	
田	○	42	漁	5	順	屈伸時腎痛, 脚索引痛	R. 内炎	2	4	+	
田	○	28	漁	3	不 産後	尿管痛	R. 尿道炎	1	12	一	尿管再發
片	○	24	無	1	不	腹部不快感, 帶下	R. 内炎	4	19	+	
田	○	20	労働	—	順	下腹痛, 發熱	R. 内炎	1	4	士	
林	○	24	會社員	4	順	全身倦怠感	R. 内炎	3	3	+	17/X 妊III
早	○	21	會社員	—	順	頭痛, 下肢肩胛痛	R.	1	7	士	尿管
藤	○	24	労働	—	順	下腹, 腰痛	R. 實内炎	2	3	士	
今	○	34	教員	—	順	頭痛, 眩暈, 腰, 下腹痛	R. 實内炎	1	7	+	
堀	○	27	鐵道員	4	順	避妊ピン除去	R.	1	3	+	ピン挿入 後20ヶ月
石	○	24	商	—	不	サル注希望	S. VIII. M. 靡爛	2	25	+	
藤	○	30	鐵道員	4	不	産後不定出血, 下腹痛	R. 復故不全	8	10	—	尿道炎ヲ 併發ス
野	○	31	商	7	不	眩暈, 頭痛, 耳鳴	R.	1	3	—	後發熱
津	○	28	商	—	不	肩胛痛	R. ビラン	2	50	+	
有	○	26	會社員	1	順	腰痛	R. 妊一ヶ月	4	7	+	
谷	○	24	商	—	順	頭痛	R. 下垂	3	4	+	
森	○	34	労働	3	不	悪心, 嘔吐, 頭痛	S. III. M. R.	2	5	+	
島	○	45	漁	2	順	悪寒, 兩脚倦怠	R. 實内炎	4	10	+	
駒	○	21	農	1	順	帶下, 腰, 腹痛	R. 脚氣	4	6	+	ベツサ ール
見	○	28	商	1	不	分娩後出血	R.	3	12	+	
山	○	38	労働	8	順	盲腸部痛	R.	3	5	士	月經時痛
内	○	31	漁	2	不	悪心, 嘔吐	R. S. II. M.	2	3	士	
山	○	34	木材	3	不	腰痛	R.	10	12	+	
本	○	36	官吏	5	不	下腹索引痛	R. 妊初期	1	3	+	
熊	○	29	労働	4	不	悪心, 嘔吐	R. S. II. M.	1	2	+	
村	○	25	會社員	1	順	下腹痛, 鼓腸	R.	8	30	+	ベツサ ール
種	○	31	會社員	7	順	不定出血	R. ビラン	1	4	士	
鏡	○	45	商	7	順	不腹痛	R.	1	3	—	頭痛, 眩暈
木	○	34	會社員	—	順	舉子	R.	3	5	士	
沖	○	27	會社員	—	順	バルト氏腺炎	R. バルト氏腺炎	6	53	+	ベツサ ール 後妊, 流産
大	○	25	店員	1	順	胃部膨滿, 頭痛, 眩暈	R.	11	16	+	ベツサ ール
間	○	48	漁	—	不	頭痛	R. 缺落症	2	9	+	
田	○	41	地主	7	順	下腹緊滿, 索引痛	R. 後方癒着	1	3	士	10日後鼓腸 嘔吐, 浣腸 後ヨリ放屁

○田	37	畫家	1	不	出血	R. ピラン	2	48	一	時々出血
佐○	29	會社員	—	順	頭痛, 眩暈	R. アレキ後	2	30	±	時々腹痛
○田	32	洋服業	—	不	頭痛, 惡寒	R. 後方癒着	10	30	±	時々惡寒
堀○	29	理髮	7	不	食血	R. S. II. M.	5	25	+	ベツサー
○川	27	官吏	2	順	月經時下腹痛	R. 後方癒着	4	10	+	ベツサー
高○	29	商	—	順	頭痛, 下腹痛, 眩暈	R. 後方癒着	3	16	+	頭痛去ル
○木	30	農	5	不	下腹, 下脚痛	R.	1	5	±	
○橋	35	會社員	5	順	下腹索引痛	R. 外腔炎	4	8	±	
岡○	36	左官	6	不	惡寒, 脚倦怠	R. 後癒着	3	20	+	ベツサー
○好	28	會社員	2	順	下腹痛, 下痢	R.	5	42	+	ベツサー
小○	30	會社員	—	不	出行時下腹緊張感	R. 出血内炎, 膈炎	9	20	±	後他病院手術
○山	37	商	—	順	頭痛, 眩暈	R. 實質炎	2	13	±	
村○	21	商	—	順	帶下, 頭痛, 上衝感	R. 内炎	1	3	±	
○嶋	35	船員	1	順	下垂感	R.	1	5	±	
中○	33	大工	1	不	頭痛, 眩暈	R. 内炎	3	45	+	後姪
○林	51	漁業	6	不 經閉	下腹痛, 頭痛, 上衝	R. 左癒着	3	7	+	
小○	36	商	5	順	下腹痛	R. ピラン	1	5	+	
○松	26	會社員	—	順	時々下腹痛, 尿痛, 下痢	R. 右癒着, 内炎	13	60	+	ベツサー 6年前アレ キ手術
藤○	30	雜貨	3	順	惡寒, 腰痛, 左側腹痛	R. 左附器炎	6	29	+	
○川	20	漁	1	不	下腹索引痛, 脚部倦怠	R.	7	22	+	
櫻○	25	勞働	2	順	頭痛, 瘰癧感	R.	2	4	±	
○部	29	藝者	—	順	頭痛, 帶下	アレキ後 R.	1	2	±	
原○	24	商	1	順	帶下	R. (分娩後)	2	8	+	ベツサー
○並	19	商	—	順	腰痛	R. 實質炎	3	10	±	
仙○	25	漁業	—	不	腰, 頭, 脚痛	R. 實質炎	4	15	—	時々眩暈
關○	31	會社員	4	順	頭痛, 眩暈	R. 實内炎	5	49	+	ベツサー
○村	35	無	3	不	頭痛, 眩暈	R. 實内炎	2	3	+	6年後アレ キベツサー
吉○	32	官吏	3	順	腓骨索引痛, 腰痛	R. 血尿	5	92	+	
○邊	33	質屋	6	順	不正出血, 腹痛	S. II. M. 惡疽	2	17	+	
松○	41	會社員	—	順	頭, 腰, 下腹痛, 眩暈	R. 實炎, ピラン	10	97	+	
○田	22	勞働	1	順	局部瘰癧, 出血	R. 陰内炎, ピラ ン	3	47	+	
八○	36	勞働	3	順	腰痛	S. II. M. R.	7	44	+	ベツサー
○村	38	勞働	8	不	心悸亢進, 不正出血	R. 實内炎	5	10	±	
淺○	23	勞働	—	順	頭痛, 眩暈	R. 内炎	3	17	+	
○部	35	商	6	不	腰痛	R. 内炎	3	10	+	
阿○	23	會社員	—	不	頭痛, 眩暈	R. 内炎	3	7	+	
○好	29	會社員	2	順	下腹痛, 下痢	R. 骨腹膜炎	5	數ヶ月	+	姪娘ス

宮	○	24	會社員	3	順	腰痛, 下腹痛	R. 實炎	7	10	+	ベツサー
○	間	29	實業	5	順	頭痛, 眩暈	R. 實内炎	6	8	+	ベツサー
本	○	25	會社員	—	順	頭痛	R. 内炎	3	3	+	ル
○	川	26	精米	3	順	頭痛, 腰冷感, 眩暈	R. 内炎	3	3	—	不快感
鈴	○	26	事務員	1	不	頭痛, 眩暈, 嘔吐, 耳鳴	R. 内炎	1	4	+	
工	○	23	事務員	1	不	頭痛, 眩暈, 嘔氣	S. III. M. 惡痘	3	7	+	
○	米	25	會社員	—	順	頭, 腰痛, 眩暈	R. 實内炎, 右刺炎	4	6	±	
梅	○	21	鐵道員	—	順	頭痛	アレキ後 R.	6	17	+	
○	藤	22	料理屋	—	不	不正子宮出血, 尿痛	R. 出血内炎	5	14	+	
齊	○	28	新聞屋	4	順	不正出血	R. 出血	5	14	+	
○	木	22	無	0	順	悪心, 嘔吐	R.	4	15	+	ベツサー
櫻	○	23	農	0	順	帶下, 頭痛, 眩暈	R. 骨膜炎, 内炎	3	14	±	ル
佐	○	23	木炭商	0	順	頭痛, 眩暈	R. 内炎	3		±	
○	嶋	23	會社員	1	順	尿痛, 帶下	内炎, R. 尿炎	5		±	
佐	○	33	農	6	不	頭痛, 腰部索引痛	R.	3		±	
○	藤	35	勞働	7	順	心悸亢進, 不正出血	R.	6		+	
河	○	25	會社員	2	不	尿痛, 生殖器痛	R. 尿道炎	4		+	
加	○	45	勞働	7	順	腰痛, 脊部灼熱感	R. 内炎	2		+	
○	谷	24	建具	2	不產後	肛内部壓感	R. 内炎	1	3	+	
河	○	20	無	1. S. III.M.	不	頭痛, 腰冷感	R. 内炎	7	25	+	ベツサー
○	藤	30	鐵道員	4	不產後	頭痛, 下腹知覺麻痺	R.	3	15	+	ベツサー
市	○	26	商	2	不	肩痛, 倦怠	R. 内炎	3		+	8ヶ月後妊
○	田	39	無	2	不	時々出血	R. ピラン	5	26	+	ベツサー
遠	○	26	官吏	0	不	月經不順	R. 内炎	8	約90	+	ベツサー
○	山	37	勞働	0	順	腰, 下腹痛, 眩暈	R. 右刺炎	2	4	±	ル

圖 表 乙

第一. 年 齡 總數 132 人

年 齡	% 年 齡					
	10	20	30	40	50	60
10-19	1.51 (2人)					
20-29						56.81 (72人)
30-39				34.09 (45人)		
40-49		6.01 (9人)				
50以上	0.75 (1人)					

第二. 分娩回数 總數 132 人

分娩回数	%	10	20	30	40	50
不産					31.81	(42人)
I			19.69	(26人)		
II		11.36	(15人)			
III		12.12	(16人)			
IV		6.06	(8人)			
V		5.30	(7人)			
VI		4.54	(6人)			
VII		5.30	(7人)			
VIII		3.03	(4人)			

第三. 月 經 總數 132 人

年齡	%	10	20	30	40	50
10-19	1.51					
20-29			17.42		40.15	
30-39			19.69	14.39		
40-49	4.55					
50-59	0.71					
60以上						

—— 順
 —— 不順

第四. 主 訴 總數 132 人

主訴	%	5	10	15	20	25	30
頭 痛							31.06 (41人)
下 腹 痛							27.27 (36人)
腰 痛							19.60 (26人)
眩 暈							16.66 (22人)
帶 下							15.15 (20人)
子宮出血							12.87 (17人)
惡 心	6.06	(8人)					
鼓 腸	6.06	(8人)					
四 肢 痛	5.30	(7人)					
嘔 吐	4.55	(6人)					
尿 痛	4.55	(6人)					
肩 痛	3.78	(5人)					
惡 感	3.03	(4人)					
下 痢	2.27	(3人)					
耳 鳴	2.27	(3人)					
月經困難	2.27	(3人)					
月經不順	1.51	(2人)					
腰 冷 感	1.51	(2人)					
下脚倦怠	1.51	(2人)					

第五. 結 果 總數 132 人

結果	10	20	30	40	50	60	70
無効	6.06(8人)						
有効						66.66 (74人)	
不明			28.00(37人)			{ ペツサ入 16.66 (22人) 後 証 4.54 (6人) }	

第六節 結 論

本療法ニヨリ位置矯正乃至「ペツサリウム」挿入患者ハ其後妊娠シタルモノ多カル可シ。何トナレバ生殖期中ノ婦人ハ常ニ妊娠可能ニシテ其妊娠シタル時。直ニ産婆ノ手ニ委ネラレ、異常ナキ限リ醫師ヲ訪フモノハ稀レナリ。之レ位置矯正ヲ得タル患者數ニ比シ妊娠例僅少ナル所以ナラム。猶ホ本療法後妊娠不能ナリシ爲メ位置矯正手術ヲ受ケタル者モアル可シ。

勿論陳舊ナル子宮位置異常ヲ有スル患者ニハ本療法ヲ行フコトヲ補助トシ引キ續キ「アリキサンダー」位置矯正手術ニ移リ得ルコトヲ理想トス。

弊院「アリキサンダー」手術患者ハ1—2回本療法ヲ反覆シ直ニ手術ヲ行フヲ常トスルヲ以テ本療法ノ効果判定ニハ價値ナキモノナリ。故ニ「ア」手術患者ニ行ヒタル重荷療法ハ本統計表ヨリ之レヲ除外スルコト、セリ。

(1). 本療法ハ推賞ス可キ婦人科外來療法ノ一ニシテ 治療時間ハ30分乃至1時間ヲ要シ病狀ニヨリ毎日、隔日或ハ2日置キニ試ミタルモ毎日行ハザル時ニ好結果ヲ得タリ。

(2). 本療法ハ手術ヲ嫌避スル子宮位置異常患者ニ 其自覺障害ヲ除キ 子宮整復及ビ妊娠ヲ容易ナラシメ、又子宮位置矯正手術準備處置トシテ或ハ「ペツサール治療ヲ爲スニ便ナリ。

(3). 急性炎症ヲ伴ハザル子宮及ビ 附屬器腫瘍手術ノ際ニ、此前處置ヲ行フ時、子宮及ビ 附屬器ニ連結セル靱帶ノ 伸展移動性ヲ大ナラシメ手術時ノ癒着剝離或ハ子宮舉上度ヲ高メテ 骨盤内操作ヲ容易ナラシム。

(4). 妊娠初期後屈、若年未婚婦人及ビ分娩流産後ノ 高度ノ貧血患子宮ハ 特ニ注意シテ行フ可キモノナリ。

文 獻

1) Heinrich Güttemann : Pyeikalische Heiltherapie. Hahban-Seitz. Biologie und Pathologie des Weibes. II Bd S. 479. 2) 水原豊博士 : Physikalische therapie in der Gynaekologie-

- 醫學輯覽, 一般治療篇(第40號. 35). S. AN. 5. 3) 安藤畫一博士 : 婦人科學各論(增訂第4版).
- 4) 久慈直太郎博士 : 婦人科診斷ト治療. S. 74-S. 85. 5) Dr. K. Sato : Lehrbuch der Gynaecologia. B. I.
- 6) Dr. Max Bunge : Lehrbuch der Gynaecologie.
- 7) Knertned : Lage u Bewegung's Anomalien der Uterus u seiner Nachbarorgane; : J-Veit Handbuch der Gynaecologie. B. I. S. 172. 8) Dr. Max Hirsch : Handbuch der innere Sekretion.
- 9) van. Prof Dr. M. Hofmeier : Handbuch der Frauenkrankheiten S. 267-271. 10) Y. Veif : Behandlung der Franenkrankheiten, S. 110-113. 11) Th. Hyenemann : Die Entzündungen der Adnexe und des Beckenperitoneum Halbanseit H. B. B. Y. S. 125-126.
- 12) Karl Reifferscheid : Halbauseit H. B. B. III S. 646. 13) Otto Kustned : Lehrbuch Der Gynaecologie S. 121.